

| | | | | | | | |
|-----------------------|--|--------|--------------------------------------|------|------------|-----|---------|
| 整理番号 | 23-27 | 事務事業名 | (成人保健事業) 乳がん検診事業 | 作成部署 | 保健福祉部健康管理課 | 電話 | 内線806 |
| 事務区分 | 自治事務 | 法定受託事務 | 部長職名 上村 弘志 | 課長職名 | 細川 和夫 | 作成日 | 平成17年6月 |
| 事務事業開始年度 | | 根拠法令等 | 健康増進法 老人保健法 がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針 | | | | |
| 〃 終了予定年度 | | | | | | | |
| 事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等) | がん患者の増加傾向に対処し乳がんの早期発見のため、老人保健法に基づく保健事業として実施した。 | | | | | | |

1 計画(プラン)

| | | | |
|----------------------|--|---------------------------------|---|
| 上位施策との関連(総合計画での位置付け) | 章 | 安全で安心できるまち | (第1章) |
| | 節 | 健康と医療 | (第1節) |
| | 施策 | 保健予防の推進 | (第2施策) |
| 目的(ここから成果指標を導きます) | 対象(誰、又は何を) | 40歳以上の女性の市民(社会保険本人、共済組合保険本人を除く) | |
| | 意図(何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか) | 乳がんの早期発見 | |
| 手段(ここから活動指標を導きます) | 市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(補助金等の場合は団体等の活動内容) | 16年度まで | 市内6医療機関と北海道対がん協会検診センターにおいて実施した。 |
| | | 17年度 | 市内1医療機関と北海道対がん協会検診センターにおいて実施。厚生労働省がん検診指針に基づき、隔年(2年に1回)実施のため、対象者を受診日現在偶数年齢者としている。健診方法は、マンモグラフィ(レントゲン撮影)と視触診の併用で実施。 |

2 実施(ドゥ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

| 区 分 | | 15年度(決算) | 16年度(決算) | 17年度(予算) | 18年度(予定) |
|---------|-------------|----------|----------|----------|----------|
| 直接事業費 | 国支出金 | | | | |
| | 道支出金 | | | | |
| | 地方債 | | | | |
| | その他特財 | | | | |
| | 一般財源 | 3,476 | 4,095 | 3,678 | 3,772 |
| | 合計 | 3,476 | 4,095 | 3,678 | 3,772 |
| 人件費(概算) | 人数(年間) | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 |
| | 1人当り年間平均人件費 | 9,235 | 9,000 | 9,000 | 9,000 |
| | = × | 924 | 900 | 900 | 900 |
| 総事業費 + | | 4,400 | 4,995 | 4,578 | 4,672 |

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

| 指 標 | 指 標(算式) | 指 標 値 | | | |
|-------------------------|------------|----------|----------|----------|----------|
| | | 15年度 | 16年度 | 17年度(目標) | 18年度(目標) |
| 活動指標 (事務事業の活動量や実績) | 検診対象者数 | 7,140人 | 7,549人 | 3,670人 | 4,070人 |
| | 受診者数 | 1,385人 | 1,608人 | 783人 | 810人 |
| | 精検者数 | 31人 | 85人 | 40人 | 40人 |
| | 発見がん | 3人 | 5人 | 2人 | 2人 |
| 成果指標 (目的の達成度を測るものさし) | 受診率 | 19.40% | 21.30% | 21.25% | 19.90% |
| | 精検者率 | 2.24% | 5.29% | 5.11% | 4.94% |
| | 発見率 | 0.22% | 0.31% | 0.26% | 0.25% |
| 効率指標 (主要活動単位当たりコスト) | 受診者1人当たり経費 | 3,177円/人 | 3,106円/人 | 5,847円/人 | 5,768円/人 |
| | | | | | |

3 評価(チェック)と改善(アクション)

| | |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等 | 乳がんの早期発見のため必要な事業であり、全国の市町村において実施している。 |
|---------------------------------|---------------------------------------|

【妥当性の評価と改善の方法等】

| 項目 | 判定 | 判定の説明や課題 | 改善の方法 |
|---|-------------------------------------|---|-------|
| 行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】 | 適切 改善の余地あり(改善の方法記入) | がん検診事業の一つとして市において実施すべき事業である。 | |
| 目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】 | 適切 改善の余地あり(改善の方法記入) | 乳がんの早期発見のため必要な事業であり、対象、目的は妥当である。 | |
| 手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】 | 適切 改善の余地あり(改善の方法記入) | 17年度から視触診に加えマンモグラフィ(エックス線撮影)検診を導入した。これに伴い、対象は40歳以上に引き上げ、隔年(2年に1回)実施とした。 | |
| 受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】 | 適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない | 受益者負担は、北海道対ガン協会への委託料の概ね3割程度を負担してもらっている。 | |

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

| 項目 | 判定 | 判定の説明や課題 | 改善の方法 |
|---------------------------------------|---|---|-------|
| 有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】 | 十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない | 17年度からマンモグラフィ(エックス線撮影)検診を導入したことにより、さらに成果が向上するものと考えます。 | |
| 効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】 | 十分効率的 概ね効率的 やや非効率的 かなり非効率的 | 17年度から対象を40歳以上に引き上げ、隔年(2年に1回)実施とした。 | |

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

- A B C

4 総合判定と今後の方向性

| 【1次評価】 | 判定 | 今後の方向性や改善方法など |
|--|--|--|
| 事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】 | 拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了 | 17年度から、これまでの「視触診」のみの検診を、「マンモグラフィ(エックス線撮影)+視触診」に拡大した。(マンモグラフィ導入については16年度新規事業評価で「早期発見に効果が期待できることから、導入に向けて検討する」としていたが、17年度に導入することとし、判定は拡大とした)なお、検診精度の向上に伴い、対象を40歳以上に引き上げ、隔年(2年に1回)実施とした。今後は当面現状のまま継続する。 |
| 【2次評価】 | 判定 | 今後の方向性等 |
| 行財政構造改革推進本部の総合判定 | 拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了 | 1次評価のとおり |